

みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句： いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

(テサロニケの信徒への手紙 I 5:16~18)

保育目標：	0歳児	・保育者と一緒に身体を動かして楽しく遊ぶ。	・秋の自然に触れる。
	1歳児	・自分の興味のあるものを見つけて楽しむ。	・秋の自然を楽しむ。
	2歳児	・自分から周りの人や物に関わって遊ぶ。	・秋の実りを喜ぶ。
	3歳児	・神さまに感謝する。	・お世話になっている身近な人々に感謝する。
	4歳児	・秋の実りを感謝する。	・まわりの人々にお世話になっていることを知り感謝する。
	5歳児	・豊かな恵みに気づいて感謝する。	・働く人々に関心や親しみをもち感謝する。

秋が深まり、吹く風が冷たくなりましたね。空気は澄んでいて、見上げる空の色や夜空の月の輝きが一段と綺麗です。朝、園に来るまでの道で漂ってくるキンモクセイの香りが心を和ませてくれます。神さまが創られたものはどれも素晴らしいですね。

10月は秋の遠足があり、幼児クラスの子どもたちは自分たちの身の回りの季節を満喫してきました。年少クラスは、八景キャンパスと室の木キャンパスを歩いて巡る遠足を行いました。見慣れた場所もいつもとは違う景色に見え、かばんの中のお弁当もとびきりのご馳走だったのではないのでしょうか。おやつもとても嬉しかったようです。年中クラスは、スクールバスを使って文庫キャンパスに行きました。関ヶ谷市民の森を少し歩いて、クモの巣や赤トンボに出会い、ドングリや落ち葉を拾い、秋を満喫することができました。バスから降りてほんの少し歩いただけで、こんな別世界があるなんてとても不思議な気持ちになりました。年長クラスは、こども園でお泊まり会を行いました。八景キャンパスの探索で、小雨の中を歩いたことや子どもたちと見た雨雲の切れ間から射す陽の光の輝き、翌日の青空に浮かんだ雲の色など、どれも私たちに新鮮な驚きと喜びを与えてくれました。夜のこども園では、キャンプファイヤーや花火に子どもたちはドキドキワクワクし、お布団の中にもぐり込むと夢の中へと入っていきました。翌朝、お迎えにいらした保護者の方々に子どもたちはどのような姿に映ったでしょう。私は、何かを成し遂げたような満足した顔に見えました。きっと、子どもたちの心にかげがえのない思い出が記されたのだと思います。このコロナ渦にあって、お泊り会が実現できましたのも保護者の方々のご理解とご協力があったからこそだと心より感謝しております。ありがとうございました。私たちは日常の中にある『行事』という非日常がどれだけ子どもたちの心を揺さぶり、変化をもたらすものであるかを改めて感じる事ができました。

11月は、子どもたちと『感謝』を身近に感じたいと思います。園庭の畑のサツマイモは、収穫の時を迎え子どもたちとサツマイモ掘りを計画しています。どうやら、今年も子どもたちが楽しみにしている焼き芋ができそうです。また、年少クラスで育てている大根やニンジンの収穫も楽しみです。神さまが命を与え子どもたちが育てそれを皆で味わう体験は、子どもたちにとって大切な喜びと分かち合いの経験となるでしょう。私たちは、神さまからいただいている恵みを感謝し喜びを分かち合う収穫感謝の礼拝を捧げます。その喜びと感謝は、神さまから私たちへの最高の贈り物であるイエス様のお誕生(=クリスマス)へとつながっていくのです。また、クリスマスを楽しみに喜びをもって待つアドベント(待降節)を子どもたちと大切に過ごしていきたいと思っています。

園長 鈴木直江